

# 弘大『キャリア@通信』 vol.007

## 弘前大学学生就職支援センター

〈Voice①〉『自分の経験が活かせる、やりがいのある仕事です！』

明治安田システム・テクノロジー株式会社

岩渕 芳さん（平成 10 年 理学部卒）

小田 さやかさん（平成 19 年 人文学部卒）

〈Voice②〉『この人に任せて大丈夫という人になりたい！』

東北ミサワホーム株式会社

佐々木 美佳さん（平成 20 年 人文学部卒）

〈Voice③〉『この地域が好きです、みんなで協力が大切！』

アツギ東北株式会社

新田 和憲さん（平成 18 年 理工学部卒）



●地（知）の拠点 青森COC+推進機構

「オール青森で取組む『地方創生人財』

育成・定着事業

弘前大学は、文部科学省「地（知）の拠点大学による  
地方創生推進事業（COC+）」に採択されました。

●コラム「二宮尊徳の教え」

～ 600 の村を復興再生した「報徳仕法」～

●若手社会人 × 弘大生

～つながるトーク～

●information

図書貸出「キャリアと仕事」

インターンシップ／教育推進機構キャリアセンター

**キャリア@通信 Voice①**  
**自分の経験が活かせる、**  
**やりがいのある仕事です！**

**明治安田システム・テクノロジー株式会社**  
**弘前開発センター**  
 いわぶち かおり  
**岩渕 芳さん**  
 (平成 10 年 理学部卒 40 歳)

**弘前開発センター**  
 おだ  
**小田 さやかさん**  
 (平成 19 年 人文学部卒 31 歳)

**全国の重要な仕事を、実は弘前でやっています。**

●現在どのようなお仕事をされていますか。

岩渕：会社全体では様々な仕事をしていますが、ここ弘前で私たちが担当しているのは、保険の営業員の方が使っているシステムをつくる仕事です。営業員の方がパソコンでお客様に保険をご説明する画面や保険の設計書などを印刷するシステムです。

全国三万人以上の営業員の方がそのシステムを使っています。明治安田生命のグループ企業として、その重要な仕事を、実は弘前でやっています。小田：私も同じ仕事を担当しています。弘前では他に外販といって、知識や経験をもとに、他の会社のシステムなど依頼を受けていて、明治安田生命以外の仕事も増えています。

●弘前で全国の仕事をしていますね。

岩渕：東京で重要な内容を打ち合わせて連携して仕事をします。東京は情報量も多く整理に時間がかかりま

す。弘前ではシステム設計に特化して早く仕上げるができると思っています。言われたことをやるのではなく、自分の経験や知識を活かせるとてもやりがいのある仕事です。

**情報を共有して、皆で同じ方向を向いて仕事をします。**

●仕事を覚えるまで大変でしたか。

小田：私は人文学部でレポートをパソコンで作るぐらいの学生だったので最初は苦労しました。入社して3カ月程東京で研修があります。SEの基礎を



弘前駅から大学へのバス通り。富田通りに明治安田生命のビルがあります。

学び、グループで演習も実施しています。

岩渕：私も入ってから覚えることの方が多かったです。入社した後でどう頑張っていくかが重要だと思います。

●仕事での失敗はありますか。

岩渕：やっぱりあります。東京の方でも直してもらったり、弘前でもテストしたり、昔いろいろな方に迷惑をかけてしまいました。仕事について自信はありますが、自分たちが作ったシステムに問題がないか、完成するまでドキドキします。

小田：自分ひとりが仕事を把握するのではなく、メンバー皆で情報を共有しています。みんな同じ方向を向いて仕事ができるように心がけています。

**ワーク・ライフ・バランスで仕事を頑張っています！**

●育児休業の後、短時間勤務で働いていらっしゃるのですか。

岩渕：通常勤務は9時から5時半までなのですが、今私は1時間早い4時半に仕事を終え、子どもを保育園に迎えに行きます。会社の制度で、小学校1

年生まで短時間勤務が可能です。「小学校に入るまで」ではなく、「1年生まで」の制度があるので、子どもの環境が変わるときに見守れて安心です。夫も同じ職場なので相手の仕事状況もわかり、協力して育児ができます。



岩渕さん 取材の2カ月前に育児休業から復職し、短時間勤務中。

小田：少し前に結婚しました。夫も同じ仕事です。私は実家から通勤していたので家を出てすべきことが増えました。やり方を考えて、仕事と家庭を両立させようと努力しています。会社の働き続けられる制度は助かります。先輩を見て頑張れます。

**忙しい時は残業もしますが、休暇も取りやすいです。**

●残業も多いのですか。

小田：今は定時に帰っていますが、忙

しい時、どうしても間に合わない時でも会社として10時までに退社しなければなりません。残業しても普通は8時には退社します。セキュリティ上持ち帰りは絶対にNGです。岩渕：仕事がちゃんとできていれば有給休暇も取りやすいです。子どもが急に熱を出した時も、日程を調整してお休みを頂いています。

**弘前で働ける仕事、自分で調べて求人を見つけました。**

●どのような学生生活でしたか。

岩渕：勉強をまじめにやっていたね。脳と目の情報のやり取りを研究していましたが、極めるレベルが高すぎました。

小田：苦学生で塾講師のアルバイトを



小田さん 取材の少し前にご結婚され、仕事と家庭がとても充実。

して生活していました。水泳部に入りましたが、飲み会が多くてやめてしまいました。

●なぜこの仕事を選んだのですか。

小田：職業の適性検査でシステムエンジニアが向いているという結果が出ました。それがきっかけで、自分で調べて求人を見つけました。

岩渕：大学で勉強したことを活かして、弘前で働ける仕事を探しました。

**文系・理系にとらわれず、面白い事を見つけてみよう！**

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

小田：私は学生時代、お金は無いけど時間はあったので、できる範囲でもっと旅行をすればよかったと思っています。地元じゃない場所や海外にも行って、見たことのない世界をたくさん経験してほしいですね。

岩渕：就職活動では文系だから理系だからと学部にとらわれないで、興味をもったことを調べてみると良いと思います。自分で面白そうだと思うことを見つけてやってみることで人生が豊かになると思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー

日野、富沢、阿部（人文学部2年）

**\*\*コラム\*\* 「二宮尊徳の教え」**  
**～600の村を復興再生した「報徳仕法」～**



このコラムではキャリア論のご紹介をしていきます。今回は『二宮尊徳（金次郎）』を取り上げて考えてみます。皆さんの小学校に薪を背負って本を読んでいる二宮金次郎の像はありませんでしたか。最近では歩きスマホの問題で、座って本を読む金次郎の像もあるようです。貧しいながらも勉強して偉くなった人…との印象があります。大人になった金次郎は武士に取り立てられ、二宮尊徳となります。江戸時代末期に活躍し、現在の栃木・茨城・神奈川・福島などで六百を超える村々を貧困・窮乏から救済し、復興・再生させた人物でもあります。尊徳の村おこし事業は「仕法」と呼ばれ、その根底には「報徳」という考え方があります。現代でも立派に通用する普遍的な理論と方法です。彼はどうやって村々を救済したのでしょうか？

～「報徳仕法」と「勤・儉・譲」～

尊徳は「私の方法は、勤勞によって収入を増やし、儉約によってムダな支出を減らし、それによって余財を産み出し、その余財を村のために役立てていく。そうすれば、村人たちが家業に精を出し、悪いことをせず、良いことをするようになり、家々も豊かになり、村も繁栄する。」と語っています。まず初めに分度（現状を見て企画）を立ててから復興の事業に取りかかります。その進め方には順序があり、①善行者を表彰する、②困窮している人を援助する、③土地の改良に力を尽くす、④村人を教育感化する、⑤貯蓄を推奨する、というものです。尊徳は、物や人に備わる良さ、取り柄、持ち味のことを「徳」と名づけ、それを活かして社会に役立てていくことを「報徳」と呼びました。「あらゆるものに徳がある」と語っています。尊徳が残した道歌のひとつです。

『昔まく 木の実大木と なりにけり 今まく木の 実のちの大木ぞ』

学生就職支援センター  
 副センター長 小磯重隆



二宮尊徳の書籍。「人の人たる道」という言葉の教えもあります。

二宮尊徳の教え

- 『小を積んで大と為す』  
ちいさなことをコツコツやる。易しいことから難しいことへ。地道な努力の重要性を説いたものです。
- 『勤めれば得る、怠れば失う』  
遊んだり怠けたりすることの度が過ぎて、勤勉に働くことが不足しては貧乏になってしまうこと。
- 『事あらかじめ立つ』  
事前の準備が大切であること。段取りの良し悪しによって事が成るか否かが大きく左右される。
- 『奪うに益なく、譲に益あり』  
お金や食べ物だけではなく、道や言葉や功も譲る。お金持ちも湯船では屈むべきことを例えています。



キャリア@通信 Voice②  
この人に任せて大丈夫  
という人になりたい!

東北ミサワホーム株式会社  
青森支店 営業部  
青森営業課ホームエンジニア  
ささき みか  
佐々木 美佳さん  
(平成 20 年 人文学部卒 30 歳)

お客様の夢を形にできる、  
営業の楽しさがあります。

●現在どのようなお仕事をされているか教えてください。

「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンのもと、一戸建ての営業職に就いています。展示場に来場されたお客様を接客したり、ミサワホームオーナー様からのご紹介を頂いたりして、それぞれのお客様のニーズに合わせたご提案をしています。最近では、りんご農家の方から、「薪ストーブがある家をつくりたい!」というご要望への提案もさせて頂きました。

一年目、仙台で一戸建ての営業を担当し、三年目に地元の青森に異動しました。青森でも一戸建てを担当していましたが、二年前には資産活用という、医療福祉施設や賃貸住宅、流通店舗等、一戸建て以外の建物を担当する営業を経験しました。そして去年、再び一戸建ての営業になりました。部署替えは新鮮味があり勉強になります。担当する建物の種類にはこだわりません。また、法人を対象とする営業もしてみたいと考え

ております。

●営業で大切にしたいと思うことは何でしょうか。

オーナー様との、契約後のお付き合いが大切だと思います。ミサワホームでは、定期的に必ずオーナー様を訪問し、住心地や不具合の有無を伺います。ご入居後も、良き相談相手になれば嬉しいです。話やすく、「この人に任せて大丈夫」と思われる人になりたいです。営業は「お客様の夢をかたちにできる」という、やりがいを感じることができます。

自分の努力次第。女性も活躍できる雰囲気。

●学生の中から住宅関係の仕事に興味があったのですか?

就職活動で、はじめて住宅会社の説明を聞いたことがきっかけです。実は他社だったのですが…。公務員にも憧れていましたが、こだわってはいませんでした。担当者からの「営業は、自分の努力次第で収入を増やせる」という言葉が印象に残り、営業職での就職を希望しました。そして最終的に出会ったのが、ミサワホームでした。4年生の6月頃に内々定

をいただきました。

●女性営業職は少ないと聞きました。何か悩みはありますか?

男性との体力差は仕方ありません。無理せず、自分のペースを大切にしています。「男性はしっかりしている」という印象が強い気がします。良い意味で、期待を裏切れるようになります。将来におけるライフスタイルの変化についても、悩んでいる仲間は多いようです。ミサワホームでは、産休・育休前後のフォローをルール化し、ハンドブックとしてまとめています。今後は介護編の制作も検討しているようです。バックアップ体制が感じられて、とても心強いです。

マイホームを検討されるお客様は、私よりも人生経験豊富な方々です。



勤務の中心は青森市の支店ですが、弘前の展示場でお話を聞きました。

話題についていけるか不安もありました。当時の上司や先輩、同期、そして家族の支えがあったからこそ乗り越えられたと心から感謝しています。オーナー様の言葉にも、たくさん勇気づけられました。

大学では“フィールドワーク”を実施していました。

●弘前大学では、どのような学生生活でしたか。

青森市の自宅から大学まで通学時間が長く、講義も朝から晩までたくさん履修していたので、充実していました。専攻は民俗学でした。岩手県でフィールド・ワークを行い、その成果を報告書として作成しました。ゼミでの滞在時間が常に少なかったため、熱心な学生ではないと思われ



モデルハウスの中はリビングや子ども部屋など素敵な空間でした。

ていたかもしれません。学費を稼ぐため、アルバイトを4年間していました。目標としていた博物館学芸員資格を取得しました。

●地元の青森県で働くことを希望されたのですか。

社会人一年目、仙台ではじめての一人暮らし、会社の慣れない環境で、上司や先輩、同期も親切にしてくれていたのにもかかわらず、ホームシックになりました。家族のことが心配で毎月一回、青森に帰省していました。「青森で勤務したい」と上司にも相談し、三年目から青森支店で勤務しております。

●平日がお休みの日ですか。

毎月第一日曜日と、火曜日(第一火曜日は除く)、水曜日が定休日です。平日が休日ですと、外出先が混み合わないことが多いので、助かります。冠婚葬祭の場合などは、お休みを頂けるので、困ってはいません。

青森県を元気づける仕事ができればと思っています。

●将来はどう働きたいですか?

営業職は最初にお客様と接する職種ですので、色々な知識が必要です。至らない点もあるかとは思いますが、誠实にご提案していきたいと思えます。自分の時間を楽しむ方、子育て

世代、介護を要する人やその家族の要望をかなえ、よりよい住まいを提供したいと考えております。住まいを通じて、青森県を元気づける仕事ができればと思っています。「しなやかに強く」働きたいです。

感謝の気持ち。周りの人たちに支えられています。

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

インターンシップを活用し、実際の仕事を体験すると、安心して答えが出せると思います。謙虚な気持ちを忘れないよう、出会った人たちの良いところを吸収し、成長していきたいです。まわりの方々への感謝も大切です。私も本当にたくさんの人たちに支えられてきました。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー  
富沢、澤田(人文学部2年)



展示場で見つけたマスコット。

## オール青森で取り組む「地方創生人財」育成・定着事業

ALL AOMORI COC+

弘前大学は平成26年度にCOC事業採択を受けて、地域志向教育改革を中心に進めてきましたが、平成27年からはさらなる強化とより明確な目標をもってCOC+事業に採択されました。青森県の最大の課題である「人口減少克服」のために、青森県内の大学・高等専門学校計10校と、青森県、青森市・弘前市・八戸市・むつ市の4市、100を超える県内企業・団体・NPO等による「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と、学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に一旦として取り組み、平成31年度までの5年間で、学生の青森県内への就職率を平成26年度から10%向上させることを目標にしています。

<事業内容>

- 青森県内での就職・起業を支援します  
「青森県内の企業に就職」や「青森県で起業」を目指す学生を支援します。
- 青森県の未来を担う人財を育成します  
「地域創生人財」を育成する教育プログラムを開発・実施します。
- 大学発新産業で雇用創出を目指します

青森県の強みである4分野で、各大学・企業等のチーム力による雇用創出を目指します。

文部科学省  
地(知)の拠点

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定締結式



知事、市長、学長等による協定締結式。「青森COC+推進機構」の発足





キャリア@通信 Voice③  
この地域が好きです、  
みんなで協力が大切！

アツギ東北株式会社  
製造部 合織加工課  
にっか かずのり  
新田 和憲さん  
(平成18年理工学部卒32歳)

ストッキング用の加工糸を、  
みんなで協力して作ります。

●現在どのようなお仕事をされているか教えてください。

アツギではストッキングを作っています。中でも合織加工課では、ストッキング用の加工糸を作っています。色々な糸を組み合わせることで製品が作られます。カバーリング糸でも300種類ぐらいあります。例えば、伸びやすいポリウレタン糸や、丈夫で切れないけどあまり伸びないナイロン糸などを組み合わせ、丈夫で伸びる糸の特性に加工します。

入社から9年間この課で働いています。合織加工課にはパートの方が80名ほどいて加工機械を扱っています。この方たちが仕事しやすい環境、気持ちよく仕事できる環境を考え整えています。

●仕事での失敗はありますか。どう乗り越えましたか。

社員として入社して、パートの方々に指示を出すのですが、私よりも長

く働いている方々です。仕事も良く知っています。指示が上手くできませんでしたが、自分ひとりでやるんじゃない、みんなで協力して仕事をするんだと分かったとき、仕事ができるようになりました。

ちょっと調子が悪いなと思ったら「声をかける」ようにしています。仕事以外でも、お子さんの病気や学校のことなど色々あります。声をかけ合うことでケガや労災防止にもなります。基本的なことですが、朝の挨拶も大切だと思っています。

この地域が好きです。朝起きると鳥の声が聞こえます。

●下北むつ地域で働くことを決めたのですか？

大間の出身です。高校はむつ市に毎日バスで通っていました。慣れ親しんだこの地域が好きです。朝起きると鳥の鳴き声が聞こえます。仙台に住んだこともありますが、住むより買い物に行く方が楽しいと思いました。不便だとは思いません。普段

暮らすのに、私にはちょうど良いです。休日にはひとりカラオケにも行きます。この前は星野源さんを歌いましたよ。働くとお給料をもらえますが、学生の頃と比べて、ちゃんとお金の管理もできるようになったと思います。最近やっと奨学金の返済が終わりました。いつお嫁さんが来ても大丈夫(笑)のように貯金もしています。東京で高い家賃を払うより、地元でその分、お金を使えると思います。

定時は8:30~17:10。  
朝10分前に出勤しています。



日本最大級のストッキング生産量。その工場がむつ市にあります。

●出勤時間と退勤時間を教えてください。

定時の勤務は8時30分から17時10分までです。朝10分前には出勤しています。私の課の残業は多くありませんとるぞ」ができた時です。逆に目標が達成できなければ辛いのですが、それ以上に品質問題がある時「あ〜何が悪くてダメなんだろう」とショックです。でも頑張ろうと思います。



ATSTICUのストッキング。おしゃれと機能性のある商品。

が試作開発は大変です。春夏物を冬に、秋冬物を夏に作り、展示会前はとても忙しくなります。スタンダードな商品の他に、柄物やカラータイツもあります。柄物は毎回苦労します。5本指ストッキングもありました。最近ではテレビの取材で工場内の自動生産機械の撮影がありました。

●仕事で楽しい時は、どんな時ですか。辛い時もありましたか？

仕事の目標が予定通りできた時は嬉しいです。例えば「1か月生産80ト

毎日違う宿題をやっている感じがします。責任が伴います。

●学生の頃と社会人になってからは何が変わりましたか？

大学時代も働いてからも、日々勉強だと思っています。学生の時はパソコンやプログラムを自分ひとりで向き合って作っていましたが、今はパートの方が働きやすい環境を考えます。直接的には結び付かないけれど活かされています。毎日答えは出ないけれど、「今日はこうやってできた、明日はこうやろう」と毎日違う宿題をやっているような感じがします。学生の頃と異なることは、責任が伴うことですね。

今いる場所で頑張ることが大切だと感じます。

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

自分が「やりたいこと」の答え

がすぐに出なくてもいいと思います。今いる場所で頑張ることが大切だと感じます。私も学生の頃からストッキング好きだった訳ではありません。地元で働きたいと思った時、この会社に出会いました。母と同じ年代のパートの方と一緒に目標に向かって頑張る達成感があります。

色々な人と関わり、視野を広げることも良いと思います。気の合う友人だけではなく、苦労があっても害になる人間関係はないと感じています。それが財産になると思います。

●本日は有り難うございました。  
取材・インタビュー  
安達、富沢、阿部(人文学部2年)



原料の糸加工から編み立て、縫製、染色、商品検査まで、全工程一貫ラインの工場。

## 若手社会人×弘大生 ~つながるトーク~

若手社会人の方々と弘大生との交流会が11月に開催されました。大学近くのベジカフェ「集会所 indriya」さんを会場に7人の先輩と15名の学生が語り合い、卒業後のイメージをふくらませました。JA 相馬村で活躍する先輩、誘致企業メーカー、地方銀行、市役所、自動車販売、ごきん刺して起業した先輩もかけつけてくれました。

1月にはダイバーシティワークショップとして性別、国籍、年齢、障害などにかかわらず働きやすい、暮らしやすい地域づくりについて話し合いました。

社会人の方々。ちょっと前まで学生だった先輩たちだから、学生のことが分かります。

会場の indriya さんは、肉や魚を使わないベジカフェ！

COC 推進室の野口先生を司会に、輪になって自己紹介。その後、小グループで話し合い。

「つながるトーク」と「ワークショップ」のチラシ。地域の方々に学生も育てられます。

## 図書貸出『キャリアと仕事』

弘前大学男女共同参画推進室の企画により、11月から1月まで、青森県男女共同参画センター情報ライブラリー所蔵の『キャリアと仕事』に関する図書の貸出を行いました。本を読んで、将来のキャリアについて考える！良い機会でした。



## 教育推進機構キャリアセンター

学生就職支援センターは平成28年4月より、教育推進機構キャリアセンターへと組織変更します。就職支援及びキャリア教育のほか、就職相談や各ガイダンス、インターンシップも充実させていきます。



## 『インターンシップ』

企業をもっと良く知ろう！5月に開催されたオリエンテーションに多くの学生が集まりました。今年度は夏休みを中心に延べ91の企業等へインターンシップ参加をしました。事前研修会、事後報告会も大切です。



5月のオリエンテーション。「何がやりたいのか」を探ることが大切です。



写真上：事前研修会の様子。「報告・連絡・相談」を練習中。

写真右：インターンシップで何を学ぶか、グループ討議。



Hiroaki University  
Student Career Center

## 編集後記



弘大『キャリア@通信』の読者は学生です。社会で活躍している弘大卒業生のお話を聞くことで職業観やキャリア意識を培ってください。大学教職員のほか、皆さんを多くの先輩達がサポートしてくれます。

左側に描かれている赤いりんごとハートはセンターのマークです。りんごは青森県を、赤いハートは学生の皆さんや企業の方々に応対する教職員の精神を象徴しています。我々も皆さんと同じ思いを持って就職活動を支援し、皆さんひとり一人、りんごのように大きく実ってほしいとの願いも込められています。



富沢 遙香（人文学部2年）

先輩方のプライベートや今後のビジョンについてもお話を伺うことができ、充実した体験ができました。



阿部 夏子（人文学部2年）

社内の応接室に案内されたり、工場を見学したり、貴重な経験ができました。



安達 安有美（人文学部2年）

実際に働いている方から意見を聞いて、刺激になりました。先輩の意見を参考にしたいと思います。



澤田 悠祐（人文学部2年）

今まで関心なかった業界のお話を聞いて、今後の進路を考える上での選択肢が増えました。



日野 夏美（人文学部2年）

実際に先輩のお話を聞くことで、以前よりも就職に対する不安が解消されました。

## 表紙の写真

取材で訪れた大湊線下北駅。本州最北の駅です。1日200人程の乗車人数があります。



弘大「キャリア@通信」vol.007 平成28年3月30日

編集・発行//弘前大学学生就職支援センター

取材学生スタッフ//富沢遙香、阿部夏子、日野夏美

安達安有美、澤田悠祐

撮影//弘前大学学生就職支援センター

